

能登町立鶴川小学校 令和2年度学校評価 評価資料 教員等アンケート

評価⇒ 4:あてはまる 3:あてはまらない 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない

●「R2年度 第2回学校評価自己評価」のための評価資料①(アンケート)

項目	内容	評価	現在の取組状況	今後に向けて
1	学力向上プラン「目指す姿(授業)」をイメージして、授業を行い、学力の向上を図っている。 ★【学校研究の視点】	4→5人	<ul style="list-style-type: none"> ・式と図を繋げられるように問い返しを行っている。 ・①目的別に立式して答えを出している児童が、図や言葉と結びつけて考えよう、説明しようとする事ができるように促している。 ・②既習をもとに見直しをもつて問題に取り掛かることがほぼ全員できるようになった。 ・③問題文と式、図をつなげる説明を行っている。児童自身が自ら図を使っている。 ・④図と式、言葉を使って考え、説明しようとする児童も増えてきたが、説明となる難しい児童もいる。 ・⑤説明の際に、キーワード(算数用語など)を示して使うように促した。 ・⑥考えの類には、言葉や式だけでなく、図に戻ってみたり、図でいうとういうことか、図に戻って考えるようにしている。 ・⑦まだまだ題意の把握がすんなりしない児童と、なかなかわからない児童の個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明できるようにして、自分一人の方で解けるようにしていきたい。 ・①原典問題においては、見直しをもつて答えを出せる児童もいるので、様々な問題を取り組みながら力を伸ばしていけるようにする。 ・②後期学力向上プランをもとに授業改善に努める。 ・③式と図の整合性を確認する。うまく説明できない児童には、算数用語の提示を継続的に進めていく。 ・④全体で課題意識をした後に、問題把握を難題とする子にどう個人指導をしていくか、または、ヒントカードなど小道具を出していくか考える。
2	学力向上プラン「目指す姿(基礎)」を達成できるよう、取組を理解し実践している。 ★【学校研究の視点】	4→5人	<ul style="list-style-type: none"> ・各月の代表者に学習リーダー分担させ、全員が進行できるように話し合っている。子どもたちだけで進めることは難しいが、問題を解決していく流れはできてきている。 ・①学習リーダーが友だちの反応を見ながら進められるようになってきた。(分からないところをなくす話し合い) ・②自分から質問して話し合いに参加する児童が増えた。 ・③児童同士で対話できるような用語の徹底や学習リーダーの育成を行い、児童同士で対話できるようになり、わからない児童や途中で考えた児童から指名することが身についてきた。 ・④徐々に話し合いの仕方について身についてきた。 ・⑤話し合いの仕方がわからなかった児童も今はないという声が出てきたので、話し合っている子に改めて口癖を伝えて話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色んな教科で個別5タイムを波及させて、児童相互に学びを進められるように実践していきたい。 ・①全員が話し合いに参加できるよう、続けを取り組んでいく。 ・②後期学力向上プランをもとに授業改善に努める。 ・③どの程度できるかを把握し、どのくらいできればよいか目標を決める。話し合いの視点をもっと明確にする。 ・④話し合いの内容が適切であることがあっても最後まで聞かなくて、質問なり、反論なりするように指導する。
3	タイムマネジメントを意識して、授業改善に取り組んでいる。(算数科【数学的な考え方】においては、3回完結)	4→2人 3→3人	<ul style="list-style-type: none"> ・①3回繰り返すチャームが鳴るまでにしようとして試みている。まだ時間内に入らない時もあるが、遅延して取り組んでいる。 ・②導入を7分で行うことと、話し合いの慣れによって1学期より3回完結できることが増えた。 ・③ふり返りや最後の適用問題が4分5分はみ出すこともある。 ・④課題づかか場面の流れをパターン化することやタイムマネジメントを行うことができた。 ・⑤算数においては、授業をいくつかパターン化することで、児童の学習活動がスムーズになった。 ・⑥題意の把握を7分で行う意識を持って授業に臨み、概ね達成できた。 ・⑦なるべく3回を必ずしているが、時間が間に合わない。3回目は教師が黒板に書いた適用問題を「これ分かる」と聞いて説き方を説明してもらって終えることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題意の把握までに必要な経過として、考えさせることと指導者が与えることの区別をつけることがまだ十分でないで、色んな試みしたい。 ・導入の工夫と視点を経た話し合いによって、タイムマネジメントを固めていく。 ・①今後も指導を続ける。 ・②題意の把握を7分で行うために何が必要か考える。 ・③全員が適用問題をしっかりと考えられる時間をとる。
4	ICTの効果的な活用と板書とのバランスを考え、児童の学力向上に努めている。	4→4人 3→1人	<ul style="list-style-type: none"> ・①使えるところは使えている。 ・②導入でICTを活用することで、素早く問題把握をさせたり、児童の関心を高めたりすることができている。 ・③大切にしているのは板書に際すようにしている。 ・④動く物についてはICTを利用して、残して置きたいときや思考過程が見えるようにする時は板書を利用して、また、板書を説明するかICTを使って説明するかを児童自身が選択しているときもある。 ・⑤児童のノートやプリントの写真をモニターに映したり、画面スケッチを書き込んだりして、デジタル教科書のツールも多く取り入れた。残しておきたいものは板書するなどして新しく入ったタブレットを使う授業を行ってみたいが、操作性の把握と子供たちへの説明に時間がかかったので、教師も子供も使い方に慣れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①GIGAスクール構想のタブレット端末の利用が3学期にどこまでできるか試したい。 ・②児童のタブレットを活用した授業も行って、効果的な使い方を考える。 ・③必要に応じて使い分けを行う。 ・④何をモニターで写す板書にするかを考える。 ・⑤モニターと板書のどちらを見ればよいかわからないように、工夫する。 ・⑥触らせる機会を増やす。
5	『家庭学習の手引き』等を活用して家庭学習の内容、方法等について具体的に指導し、児童が何をどのようにすればよいかを明確にして、家庭学習の定着に努めている。	4→3人 3→2人	<ul style="list-style-type: none"> ・①その日に学習したことを宿題にすることで、定着を図っている。ほとんどの児童がしっかりと取り組んでいる。 ・②自学ノートの取組構成や内容には個人差が大きい。 ・③宿題の説明を行っている。ほぼ毎日全員の児童が宿題をしている。また、自学を進んで行う児童が増えている。 ・④家庭学習の様子を児童に直接聞くことで、実態把握を行なった。自学ノートの内容については、児童のノートからお手本を示し、意欲づけを行った。 ・⑤基本の宿題をしたうえで、あまった時間で自学を取り組むという形が徐々に定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①ゲーム時間を減らす事を学校全体で講じることも必要かもしれない。 ・②自学ノートの取組構成や内容を、友だちのノートを見合ったりすることで、どのように取り組めばよいか伝えている。 ・③自学ノートの内容をもう少しわかりやすく。 ・④宿題+自学というところで手が出せるように支援していきたい。
6	『うわっ子の学習ルール』をもとに、全校一致して指導にあたっている。	4→5人	<ul style="list-style-type: none"> ・①守らうと友だちに声掛けする児童が増えた。 ・②ルールになっている時には、朝の会や生活で話をし、常に意識できるようにした。 ・③ルールがあまりない状態だと判断したとき、児童と一緒にルールの確認を行っている。 ・④適宜、確認や指導をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①意味な部分は、終礼等で話してすぐに解決すればよいと思います。 ・②学期によっては特に丁寧に話しているか確認する。 ・③今後も続ける。 ・④継続して、確認や指導をする。
7	『模擬授業』『授業目標』『校内研修サポート事業』『要請訪問』『校内ショート研修』の活用等により、授業力の向上が図られている。	4→4人 3→1人	<ul style="list-style-type: none"> ・①授業力の向上に繋がっていると思います。 ・②模擬授業や校内研修によって、学校研究の具体的な取組を理解することができた。 ・③研修の成果を積極的に取り組んでいる。今年度において、可能な限りの活用を行い、授業力の向上に図られている。 ・④3学期に行う授業において、授業力の向上につながるようになっている。 ・⑤模擬授業では、自分も思いつかない考えや授業方法を知ることができ、普段の授業実践にも生かしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①ICTの研修はまだ必要であると思われる。 ・②3学期の研究授業で授業力の高いものができるよう、準備したい。
8	児童理解の会での共通理解と共通指導の徹底、人間関係づくりに関する校内研修会の開催等により、児童のよりよい人間関係の構築に努めている。	4→2人 3→2人 2→1人	<ul style="list-style-type: none"> ・①困ったり、判断に迷う場合は、すぐに話し合える環境にあるので、良いと思う。 ・②児童の様子についての共通理解が深まっている。 ・③細かなことでサーバー上に研修を積むことで、変化をみることができるようになっている。 ・④毎月の児童理解では、共通指導の徹底が行われている。 ・⑤なかなかAIアンケートの結果以外の提案も共通理解できているので、共通指導につながっていると実感しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①特に気になる子以外は、取り敢えずに文字で後で読んでもらう程度でよいと思います。伝えていくことが、現状把握の時間が多いので、支援を話し合う余裕が少しは良いかと思っています。 ・②3学期はじめの対応アドバイザーを招いての研修会でも先生方が必要と感じる研修会を具体的に考えるように計画したい。 ・③今後、児童間のつながりを意識して、児童理解の会を行う。 ・④今後も学校全体で児童を見ていく。情報発信もしっかり意識、実践する。 ・⑤担任として今後に向けてどうしていくか、考えたいが、ほかの先生、特に実践教諭やスクールカウンセラーがどのように関わっていくか、児童理解の会での決められたらよい。
9	道徳の授業では、学校行事や特別活動、実生活等との関連付けを行い、道徳的な実践力が高まるように努めている。	4→2人 3→3人	<ul style="list-style-type: none"> ・①努めているけれども、どの程度できているかは測定できないのが難しい。 ・②生活と結びつけた話し合いができています。 ・③「今までの自分」と「これからの自分」についてふり返り、考えることができている。 ・④毎週、身近になるように具体例を挙げて考えている。 ・⑤学校行事や特別活動との関連はうまくいっているが、実生活(家庭)との関連が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①継続して実生活と関連した話をしていますが、道徳の授業がやはり難しい。 ・②続けて生活と結びつけた授業を行えるようにする。 ・③「今までの自分」と「これからの自分」を比べる場面を、これまでの経験と結び付けていくためにはどうすればよいか考える。
10	『体力アップ1校プラン』『スポチャレ』等による体力向上の取組を計画的に行っている。	4→2人 3→2人 2→1人	<ul style="list-style-type: none"> ・①多くの分掌を持ち合わせている中で、あれもこれもは難しい。それなりのごとしかできないが、応やっているつもりである。 ・②授業はじの準備運動として8の字や長なわに取り組んでいる。 ・③児童は記録の更新を目指して取り組むことを楽しんでいる。 ・④授業の準備運動としてスポチャレに取り組み、40m走と8の字のチャレンジのゴールを達成できた。 ・⑤8の字練習を中心に取り組んでいきたいことができた。 ・⑥総合でたくさん地域の力を協力していただくことができた。 ・⑦先生の声を聴いたり、見学に行ったりすることで子どもたちの学びが積極的になり、地域への思いも深まった。 ・⑧「い」について、講師を招いて海洋教育を行った。また、遠足などで「うみとせなかの科」学習「遊覧船」に行き、海のきれいなことイカの漁獲量の多さを実感した。 ・⑨あまりできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①来年度も体育の分掌は分担してやるのが良いと思います。(体育の行事) ・②記録の更新がクラス全員で取り組めるように大きく続けていく。 ・③授業の準備運動としてスポチャレに取り組み、40m走と8の字のチャレンジのゴールを達成させた。 ・④40メートル走にも取り組む。
11	地域の素材を元に学習活動や海洋教育を行ったり、地域の人材を活用したりして、『ふるさと学習』を積極的に展開している。	4→2人 3→2人 2→1人	<ul style="list-style-type: none"> ・①総合でたくさん地域の力を協力していただくことができた。 ・②先生の声を聴いたり、見学に行ったりすることで子どもたちの学びが積極的になり、地域への思いも深まった。 ・③「い」について、講師を招いて海洋教育を行った。また、遠足などで「うみとせなかの科」学習「遊覧船」に行き、海のきれいなことイカの漁獲量の多さを実感した。 ・④あまりできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①しようと思案はあっても、授業回数が多くて子どもが回らないことも多い。 ・②3学期は道徳や社会でもふるさと学習に取り組む計画を立てる。 ・③地域との関係性について話し合えるようにしたい。 ・④計画的におこなっていく。
12	避難訓練や防災訓練等を通して、非常災害発生時の緊急行動、避難行動の仕方等を理解し身に付けることができています。	4→5人	<ul style="list-style-type: none"> ・①年間を通した振り返りシートはとても良かった。 ・②訓練を繰り返すことで、児童が自主行動を自分で考えられるようになった。 ・③各訓練の際に事前指導と事後指導を行った。理解をすることができた。 ・④回数重ねることによってよくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①来年度も年間を通した振り返りシートを活用しよう。 ・②安全行動について、普段から指導するようになりたい。 ・③3学期は予定がないが、朝の会などで、ときどき避難行動の確認を行いたい。 ・④日ごろから防災意識を高める。
13	最終退校時刻(19:00)を意識し、業務改善に努めている。	4→3人 3→2人	<ul style="list-style-type: none"> ・①週単位で計画を立て、その日にすべきことを決めながら取り組んでいる。 ・②最終退校時刻を意識しており、業務改善も進んでいるが、19:00を過ぎる時がある。 ・③優先順位を決めるなど、計画的に仕事を進めていく意識をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①冬休み中にもできることに集中して取り組み、守れる日を増やせるようにする。 ・②今後、19:00に帰ることができるようになりたい。 ・③継続していき。
14	定時退校日(原則第3水曜日)を守るよう努めている。	4→4人 3→1人	<ul style="list-style-type: none"> ・①週単位で仕事の計画を立て、定時退校日に急ぎの仕事が出ないようにしている。 ・②水曜日の定時退校日は設定されている。水曜日は必ず予定表を作成する日なので、早めに声かけを行った。火曜日に水曜日の準備をしたり、定時退校を守るように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①努めているだけでなく、実際に定時退校できるようにしたい。 ・②継続していき。

●「R2年度 第2回学校評価自己評価」のための評価資料②(各種教育データ等)

項目	内容	評価	評価の根拠	今後に向けて
16	4教科の単元末テストで、当該単元の本目標通過率(80%以上)を達成できている。	4→2人 3→3人	4教科「単元末テスト」の点数の平均値(49)人 算数(49)人 国語(49)人 理科(35)人 社会(34)人	<ul style="list-style-type: none"> ・①下位層の引き上げを行う。年度末に振り返り問題を解かせたり、説明をさせたりして定着を図る。 ・②特に算数においては、前学年の内容も含めて基本的な内容を忘れている。帯タイムなどで練習したい。 ・③短い時間で個別指導を行うことも必要。
16	『漢字テスト』において、各学年の本目標通過率(90%以上)を達成できている。	4→4人 3→1人	年間3回「漢字テスト」の点数	<ul style="list-style-type: none"> ・①前学年の漢字も含めて定着を図っていく。
17	『計算テスト』において、各学年の本目標通過率(90%以上)を達成できている。	4→5人	年間3回「計算テスト」の点数	<ul style="list-style-type: none"> ・①基本的な問題は確実に素早くできるように練習していく。
18	校内「活用力問題」で、当該学年・当該教科の本目標通過率を達成できている。(目標通過率60%)	4→3人 3→2人	1. 2学期末「検証問題」の成績 7月・・・53.3 12月・・・6.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・①どんな授業で問い返していききたい。 ・②問題の出し方が難しくなること、考えの見直しをもつことが難しくなる。既習を複数結びつける問題にいろいろ取り組んでいく。 ・③新しい形式の問題に弱い。いろいろなパターン問題に当たるとともに考え方の指導を行う。
19	『読書冊数年間100冊以上』等の啓発活動において、目標達成できている。	4→1人 3→4人	1. 2学期末の読書記録等、学校全体としてのデータをもとにする 12月末時点で 7.6冊以上・・・3.5人 達成率・・・61.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・①2月1回、読書冊数を知らせ、意識させる。 ・②読書週間の取り組みや図書委員の活動を取り、啓発活動を続ける。
20	地域資源(人材・施設・歴史・自然)を活用した授業づくりを行っている。	4→3人 3→1人 2→1人	学期に1回以上の教員の割合(3.2)回実施した	<ul style="list-style-type: none"> ・①3学期は道徳や社会でもふるさと学習に取り組む計画を立てる。

【記述欄】